

「雪崩災害防止パネル展」概要について

1. 開催趣旨

山に積もった雪が、斜面を崩れ落ちて発生する雪崩災害は、人命や家屋に大きな被害を与えるリスクがあります。

特に、降雪後に気温が上昇する春先は、融雪による雪崩発生危険性が高まることから、県民の防災意識向上につなげるため、雪崩災害防止に関するパネル展を開催します。

2. 展示物

①額装……7枚程度

- ・雪崩に関する解説および雪崩防止施設設置状況

雪崩（なだれ）とは

山の斜面に積もった雪が、一気に崩れ落ちる現象を「雪崩」といいます。雪崩には2種類あり、「表層雪崩」と「全層雪崩」に分けられます。積雪の多い地域では、今後、雪崩の発生する危険性が高まるので注意が必要です。

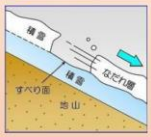
積雪の多い地域では、雪崩への注意が必要よ。

☆表層雪崩

山腹に積もった雪のうち、表層部に積もった新しい雪がすべり落ちる現象

<主な特徴>

1. 積雪内部にすべり面があり、表層部のみがすべり落ちる。
雪崩のスピード：時速100~200km/h
2. 山腹の急斜面に発生しやすく、特に雪庇(せっぴ)や吹き溜まりができていた斜面で発生しやすい。
3. 気温が低く、これまでに積もった雪の上に短時間で多くの新雪が積もった場合に発生しやすい。
4. 1月から2月にかけて多く発生する。

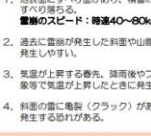


☆全層雪崩

山腹に積もった雪が、全てすべり落ちる現象

<主な特徴>

1. 地表面にすべり面があり、積雪の全層がすべり落ちる。
雪崩のスピード：時速40~80km/h
2. 過去に雪崩が発生した斜面や山腹緩斜面で発生しやすい。
3. 気温が上昇する春先、降雨後やフェーン現象等で気温が上昇したときに発生しやすい。
4. 斜面の雪に亀裂(クラック)があるときに発生する恐れがある。



雪崩防止施設

県では、雪崩発生のおそれがある箇所に雪崩防止施設を設置し、雪崩災害から集落を守っています。雪崩防止施設には、予防柵、防護柵、減勢工などがあります。

☆雪崩減勢工



大野市 飯崎(いひり)地区

☆雪崩防止埋堤



勝山市荒土町西ヶ原地区

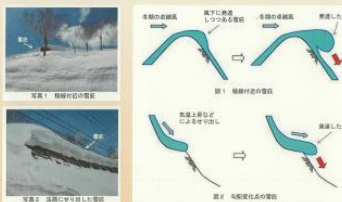
いろいろな施設で僕たちを雪崩災害から守っているんだね。

- ・雪崩の前兆現象

雪崩の前兆現象 1


☆雪庇(せっぴ)

雪庇は、風により積雪付近に運ばれた雪片が風下に付着し、ひさし状に成長したものです。先端部がある程度まで発達すると崩壊し、雪崩を誘発する危険性があります。また、小規模な局地気象変化では、気温上昇に伴い斜面傾斜が下方にせり出し、完全な雪庇が崩壊する恐れがあります。



☆亀裂(クラック)

斜面にひっかき傷のような雪の割け目が現れる現象です。これは積もった雪がゆるみ、少しずつ動き出そうとしている状態です。その動きが大きくなると全層雪崩が起こる危険があります。



雪崩の前兆現象 2

☆雪きだれ

雪崩予防柵から雪が湧き出している現象です。湧き出した部分が雪のかたまりとなって斜面に落ちることによって、雪崩につながる危険があります。



☆斜面が平らになっている

斜面に、元の地形が分からないほど平らに雪が積もっているときは、表層雪崩が起こる危険性があります。家の裏山などは特に注意が必要です。



☆スノーボール

斜面をボールのような雪のかたまりがころころ落ちてくる現象です。これは雪庇や雪きだれの一部分が落ちてきたもので、雪崩につながる危険があります。スノーボールが多く見られるときは、特に注意が必要です。



☆雪しむ

ふやけた雪庇のシワ状の雪の層が剥がれる現象です。これは、積もっていた雪がゆるみ、少しずつ動き出そうとしている状態です。積雪が少なくても全層雪崩が起こる危険性があります。



前兆現象が見られたら → 斜面に近づかない。市役所、町役場や土木事務所へ連絡してください。

資料：国土交通省HPより